

中路融人記念館開館10周年記念展

まなうら はん

眼裏の榛の木—心原風景—

日本画家・中路融人の作品を展示しその画業を伝える中路融人記念館は、今年で開館10周年を迎えました。これまでさまざまなテーマで企画展を開催してきましたが、本展では中路の愛した湖北の原風景「榛の木」の風景についてひもときます。

母の故郷である滋賀県の自然に幼いころから親しんだ中路は、60年以上に及ぶ画業の中で滋賀県各地の風景を描きました。中でも関心を持ち、多くの作品に残したのが榛の木のある風景です。榛の木はかつて湖北地域を中心に田の畔に植えられていた畦畔木で、農家のくらしに密接にかかわった木でした。しかし、圃場整備や農業の近代化に伴って伐採され、湖北を象徴する風景だった榛の木の木立は現在では見ることはできません。中路は、消えゆく榛の木の情景を惜しみ、残された榛の木を追い求めて各地に写生に赴きました。

本展では、中路の残した作品たちによって展示室にかつての榛の木の風景がよみがえります。中路が生涯魅せられた湖北の原風景をぜひご覧ください。

※会期中に作品の入れ替えはありません。

●展示の見どころ

1 今はなき湖国の原風景にふれる

中路は滋賀県内の各地をめぐり、日常の中で一期一会の美しさを見せる自然を数多く描きました。その中でも中路が強い関心を寄せていた榛の木の風景は、かつて湖北に広がっていた原風景の魅力を今に伝えています。

2 うるおいあふれる風景画たち

中路は、自らの作品において水は欠かせない舞台装置であると語っています。小川や水を張った田んぼ、雨や霪に包まれた榛の木の風景は、中路にとって大事な水の表現が随所に表れています。

3 当時の写真をスライドショーで

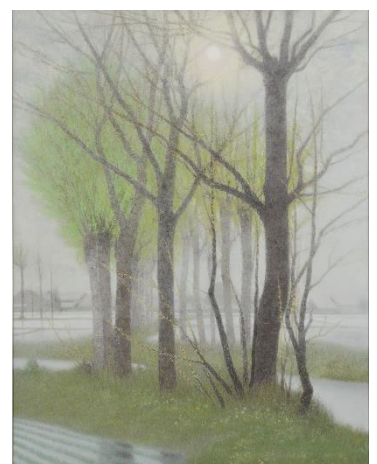
長浜市在住の写真家・吉田一郎さんが撮影した榛の木の風景写真を展示室内のモニターでご覧いただけます。また、1階ギャラリースペースでは写真パネルを展示します。



「霧の朝」
2007年 当館蔵



「雪原」
1979年頃 個人蔵



「朝霧」
2001年 当館蔵

作家紹介

な か じ ゆ う じ ん

中路融人(1933－2017)

京都市出身。京都市立日吉ヶ丘高等学校美術科(現京都市立美術工芸高等学校)を卒業後、山口華楊が代表を務める晨鳥社に入塾し、以後日展を中心に作品を発表。日展特選や文部大臣賞などの受賞を重ねる。1997年に晨鳥社会長に就任。2001年に日本芸術院会員に任命される。母の故郷である五個荘町(現東近江市)とは古くから交流があり、個展の開催や町主催の絵画コンクールの審査員などを務めた。2015年、東近江市に日本画 52 点を寄贈。翌年4月に中路融人記念館が開館。文化功労者、東近江市名誉市民。



No.	作品名	サイズ (cm)	制作年	出品展覧会	所蔵
1	自画像	64.5×49.5	額装/紙本彩色		
2	緑雨	116.5×79.8	2007 額装/紙本彩色	近江の四季燦々と 中路融人日本画展	
3	雪野	90.5×72.2	額装/紙本彩色		
4	雪原	87.0×129.5	1979 頃 額装/紙本彩色	－湖北を描く－中路融人個展	個人
5	朝靄	79.9×116.3	1977～78 頃 額装/紙本彩色		
6	朝霧	219.7×169.8	2001 額装/紙本彩色	第 33 回日展	
7	雪野	79.3×115.5	2007 額装/紙本彩色		
8	野の川	64.5×90.0	2007 額装/紙本彩色		
9	雪野の川	52.3×72.4	2007 額装/紙本彩色	近江の四季燦々と 中路融人日本画展	
10	水田 (五月頃) 〈素描〉	38.0×62.5	額装/紙、コンテ、 クレヨン		
11	積み藁の木〈素描〉	38.5×31.5	額装/紙、コンテ、 色鉛筆		
12	湖北の道〈素描〉	38.5×62.7	額装/紙、コンテ、 クレヨン		
13	木立と家〈素描〉	34.0×23.9	額装/紙、コンテ、 クレヨン		
14	川辺の樹〈素描〉	61.0×37.0	額装/紙、コンテ、 クレヨン		
15	水温む頃〈素描〉	38.0×60.0	額装/紙、コンテ、 クレヨン		
16	冬田の水映〈素描〉	34.1×24.1	額装/紙、コンテ、 クレヨン		
17	玄映	161.0×196.5	額装/紙本彩色		滋賀県立 美術館
18	映	162.0×130.3	額装/紙本彩色		
19	余呉の冬	96.8×130.3	額装/紙本彩色		
20	朝霧の川	111.7×161.0	2004 額装/紙本彩色	－近江十題－ 中路融人展〈日本画〉	
21	霧の朝	71.3×52.0	2007 額装/紙本彩色	近江の四季燦々と 中路融人日本画展	